

平成29年10月11日
 東部農林振興センター松江農業普及部安来支所

標 題	大区画ほ場で2年目のキャベツ栽培始まる ～「高収益作物」の試作も始まる～
------------	--------------------------------------

(ダイジェスト)

安来市の(農)Nで、大区画ほ場で2年目のキャベツ栽培が始まった。昨年は6ほ場1.25haだったが、今年は大区画ほ場1ほ場1.6haでの栽培で、鉄コンテナによる出荷など生産コストの低減と加工用出荷主体の出荷を予定している。

また、(農)Oでは、レタス0.5ha、タマネギ0.2ha、スイセン球根0.8haの栽培を開始し、U地区では搾油用のひまわりの試作を実施した。いずれも水田における「高収益作物」の候補として注目されている。

9月2～4日に(農)Nがキャベツの定植作業を行った。昨年は6ほ場1.25haでの栽培だったが、今年は大区画ほ場1ほ場1.6haでの栽培で栽培規模も少し拡大された。定植後には地下水位制御システム「FOEAS (フォアス)」を活用して地下水位をコントロールし、順調に活着した。今年も鉄コンテナによる出荷など生産コストの低減と加工用出荷主体の出荷を予定されている。

(農)Oでは、従来から取り組まれている飼料米、稲SGSに加えて、レタス0.5ha、タマネギ0.2haの栽培を開始し、スイセン球根0.8haの栽培も予定している。レタスについては県外の業務系への出荷、スイセン球根も県外の種苗会社への出荷を予定している。タマネギは本年産は小面積の試作となるが、機械定植の試験も予定されている。

また、本年度大区画ほ場整備事業が採択されたU地区では、搾油用のひまわりの試作を実施した。発芽率が低いなど栽培上の課題も残ったが、9月30日には「ひまわり祭り」も開催され、地元では次年度の栽培に向けて引き続き取り組まれる予定である。

これらの取り組みは、水田での「高収益作物」の候補として注目されている。安来市においては、干拓地では一部機械作業体系を入れた大規模露地野菜に取り組む法人もあるが、水田での機械化体系を組むことができる大規模露地野菜の取組事例、ノウハウが不足している。今回、各品目の栽培を行う法人・地区は、いずれも市内平野部に位置しているが、今後、市内中山間地域でのほ場整備事業に向けて検討を始めた地区もあり、平野部の大区画水田、中山間地の水田それぞれで取り組むことのできる「高収益作物」の候補を増やすことが関係機関に求められている。地域PJ等で検討を進めるが、県全体での検討もお願いしたい。



写真 定植後のキャベツほ場